



CQM (超短期経済予測モデル)

編集 稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)

日本経済 (月次) 予測 (2015 年 12 月)

内容に関するお問い合わせは下記まで

e-mail: inada-y@apir.or.jp

ポイント

●12月に発表されたデータの特徴

▶年末にかけて 10-12 月期 GDP 説明する基礎データのほぼ 3/2 が発表された。データの特徴は「雇用環境は改善が続いているが、家計消費が低迷している」となろう。

▶11月の完全失業率は3.3%と3カ月ぶりの前月比悪化だが内容は悪くない。有効求人倍率は1.25倍となり前月比+0.01ポイント上昇し、1992年1月以来の高水準である。

▶雇用環境は改善が続いているが、家計消費は低迷している。11月の実質消費支出は前月比-2.2%減少し3カ月連続のマイナス。結果、10-11月平均の実質消費支出は、7-9月平均比-1.9%低い水準となっている。

▶一方、10-12月期の実質純輸出は回復が期待できる。

●10-12月期成長率予測の動態

▶先週は、11月及び10月の統計の発表が集中した。これらのデータを更新した結果、民間最終消費支出の予測値は下方修正、民間住宅の予測値は上方修正された。

▶このため、今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.0%、年率+0.1%と予測。先週の予測(年率+0.9%)から下方修正された。2015年の最終四半期はほぼゼロ成長となろう。図表1参照。

▶国内需要は実質GDP成長率に対して前期比-0.5%ポイントのマイナス寄与、実質純輸出は同+0.5%ポイントのプラス寄与となっている。

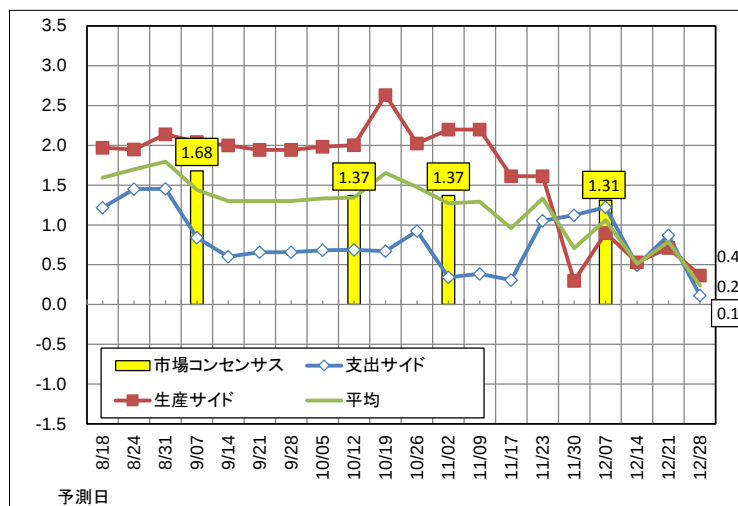
●10-12月期インフレ予測の動態

▶11月の全国消費者物価コア指数は前年比+0.1%上昇し5カ月ぶりのプラス。うち、エネルギー価格は消費者物価全体を1%程度引き下げている。ちなみに、生鮮食品・エネルギーを除く指数(日銀試算)は同+1.2%となっている。

▶インフレ動態を見れば、今週のCQMは10-12月期の民間最終消費支出デフレーターを前期比-0.1%と予測する。また国内需要デフレーターを同-0.1%と予測。10-12月期の交易条件は前期比改善するため、GDPデフレーターを同+0.1%と予測する(図表2参照)。

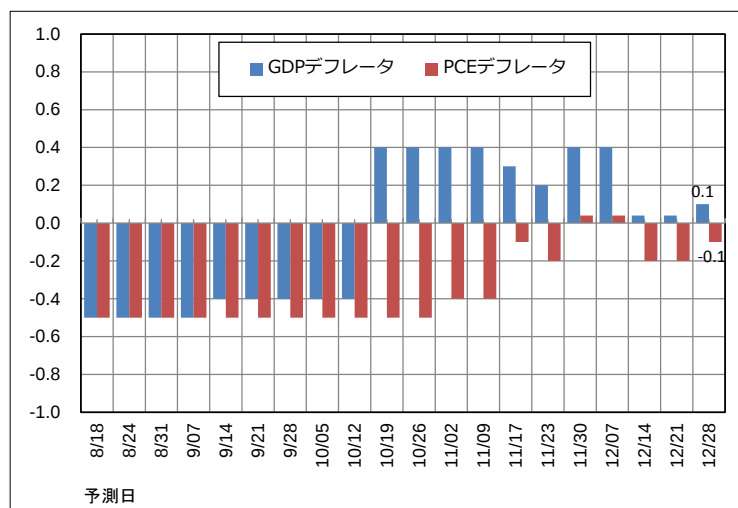
図表1 CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率

2015 年 10-12 月期 (% , 前期比年率)



図表2 CQM 予測の動態：インフレーション

2015 年 10-12 月期 (% , 前期比)



＜2015 年最終四半期はほぼゼロ成長＞

【12 月に発表されたデータの特徴】

年末にかけて 10-12 月期 GDP 説明する基礎データのほぼ 3/2 が発表された。データの特徴を一言で述べると、「雇用環境は改善が続いているが、家計消費が低迷している」となろう。

11 月の完全失業率(季節調整済み)は前月から 0.2%ポイント上昇し 3.3%となった。3 カ月ぶりの悪化となったが内容は悪くない。年齢階級別に失業率を見れば、25-34 歳で 0.8%ポイント、45-54 歳で 0.3%ポイントそれぞれ前月から上昇した。若年層がよりよい職を求めて退職しているようである。完全失業者数(季節調整済み)は前月比 11 万人増加し 217 万人となった。2 カ月ぶりのプラス。内訳を見れば、非自発的な離職は同-3 万人減少し 3 カ月連続のマイナス。自発的な離職(自己都合)は同+6 万人増加し 2 カ月ぶりのプラス。また、新たに求職が同+5 万人増加した(2 カ月ぶりのプラス)。11 月の有効求人倍率(季節調整済み)は 1.25 倍となった。前月比+0.01 ポイント上昇し、1992 年 1 月(1.25)以来の高水準である。2 カ月ぶりの改善。正社員の有効求人倍率(季節調整値)は 0.79 倍となり、前月比+0.02 ポイント上昇した。一方、新規求人倍率は 1.93 倍となり、前月比+0.10 ポイントと 2 カ月ぶりに上昇した。

雇用環境は改善が続いているが、家計消費は低迷している。家計調査報告によれば、2015 年の実質家計消費支出はこれまで 11 カ月のうち 9 カ月が前年比マイナスである。11 月は前年比-2.9%減少し、3 カ月連続のマイナスとなった。季節調整値で見れば、実質消費支出は同-2.2%減少し 3 カ月連続のマイナス。結果、10-11 月平均の実質消費支出は、7-9 月平均比-1.9%低い水準となっている。

雇用環境が堅調にもかかわらず、消費が低迷している背景には所得の伸びが非常に弱い点にある。家計調査によれば、勤労者世帯の実質実収入、実質可処分所得いずれもマイナスの伸び(10-11 月平均の 7-9 月平均比)にとどまっている。期待されていた実質賃金の伸びは毎月勤労統計ベースでも非常に緩やかである。

一方、改善の兆しが純輸出に見られる。11 月の貿易収支は 2 カ月ぶりの赤字となったが、前年比-57.8%縮小した。季節調整値は 57 カ月連続の赤字だが前月比-98.1%縮小。結果、10-11 月平均の貿易赤字は 7-9 月平均比-73.1%減少した。数量ベースで 10-11 月平均を 7-9 月平均と比較すれば(季節調整値)、輸出数量指数は+1.8%、実質輸出指数(日銀試算)は+3.4%上昇。一方、輸入数量指数は-0.1%、実質輸入指数(日

銀試算)は-1.0%低下した。10-12 月期の実質純輸出は回復が期待できる。

【10-12 月期成長率予測の動態】

先週は、11 月及び 10 月の統計の発表が集中した。これらのデータを更新した結果、民間最終消費支出の予測は下方修正、民間住宅の予測は上方修正された。このため、今週の CQM(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.0%、年率+0.1%と予測。先週の予測(年率+0.9%)から下方修正された。2015 年の最終四半期はほぼゼロ成長となろう。図表 1 参照。国内需要は実質 GDP 成長率に対して前期比-0.5%ポイントのマイナス寄与、実質純輸出は同+0.5%ポイントのプラス寄与となっている。

10-12 月期の国内需要を見れば、実質民間最終消費支出は前期比-0.5%となる。実質民間住宅は同-4.2%減少し、実質民間企業設備は同+1.2%小幅増加する。実質政府最終消費支出は同+0.4%増加し、実質公的固定資本形成は同-0.3%減少する。結果、国内需要は実質 GDP 成長率(前期比+0.0%)に対して-0.5%ポイントとマイナス寄与となった。

財貨・サービスの実質輸出は同+3.4%、実質輸入は同+0.7%増加する。このため、実質純輸出の実質 GDP 成長率に対する寄与度は+0.5%ポイントとなる。

【10-12 月期インフレ予測の動態】

11 月の全国消費者物価コア指数は前年比+0.1%上昇した。5 カ月ぶりのプラス。うち、エネルギー価格は同-11.1%低下し、11 カ月連続のマイナス。下落幅は前月から幾分縮小したが、消費者物価全体を 1%程度引き下げている。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除くコアコア指数は前年比+0.9%となり、26 カ月連続のプラス。エネルギーを除く指数では消費者物価は緩やかな回復基調となっている。ちなみに日銀が 10 月分から試算を発表した生鮮食品・エネルギーを除く総合指数は前年比+1.2%となっている。

今週の CQM は 10-12 月期の民間最終消費支出デフレータを前期比-0.1%と予測する。また国内需要デフレータを同-0.1%と予測。10-12 月期の交易条件は前期比改善するため、GDP デフレータを同+0.1%と予測する。インフレ動態を見れば、図表 2 が示すように、民間最終消費支出デフレータは(幾分)同マイナスとなっているが、マイナス幅は縮小傾向にある。また交易条件は引き続き改善するため、物価の総合的な指標である GDP デフレータは 5 期連続の上昇を予測している。

12月の主要経済指標

12/25:

労働力調査: (11月)

就業者数: 6358万人, -38万人 前月比
失業者数: 217万人, +11万人 前月比
失業率: 3.3%, +0.2%ポイント 前月比

一般職業紹介状況: (11月)

有効求人倍率: 1.25, +0.01ポイント 前月比

家計調査報告: (11月 2人以上世帯:消費支出)

名目: -2.5% 前月比, -2.5% 前年比
実質: -2.2% 前月比, -2.9% 前年比

新設住宅着工: (11月)

新設住宅着工数: (+2.8% 前月比, +1.7% 前年比)
工事費予定額: (+5.4% 前月比, +4.4% 前年比)

全国消費者物価指数: (11月)

総合: 103.5 (-0.1% 前月比, +0.3% 前年比)
コア: 103.4 (+0.1% 前月比, +0.1% 前年比)

東京都都区消費者物価指数: (12月)

総合: 101.9 (-0.1% 前月比, 0.0% 前年比)
コア: 101.9 (+0.1% 前月比, +0.1% 前年比)

企業向けサービス価格指数: (11月)

総合指数: 103.0 (+0.2% 前月比, +0.2% 前年比)

12/24:

毎月勤労統計: (10月速報値)

現金給与総額: +0.7% 前年比 総実労働時間: -2.7% 前年比

12/21:

産業活動指数: (10月)

全産業: 103.3(+1.0% 前月比) 建設業: 111.0(+0.9% 同)

12/17:

建設総合統計: (10月)

民間建築: 非居住: (7,931億円, +8.5% 前年比)
公共工事: (1兆673億円, -1.5% 前年比)

貿易統計: (通関ベース:11月)

貿易収支: -3,797億円 (-98.1% 前月比, -57.8%)
輸出: (+0.5% 前月比, -3.3% 前年比)
輸入: (-2.2% 前月比, -10.2% 前年比)

12/15:

公共工事請負: (11月)

件数: (22,312件, +0.7% 前年比)
金額: (8,720億円, +3.3% 前年比)

12/14:

鉱工業指数: (10月 速報値)

生産能力指数: 95.3, +0.1% 前年比
稼働率指数: 98.7, +1.3% 前月比

第3次産業活動指数: (10月)

第3次産業: 104.0 (+0.9% 前月比)

消費総合指数: 106.5 (10月 前月比-0.2%)

12/10:

国内企業物価指数: (11月)

企業物価: 101.4 (-0.1% 前月比, -3.6% 前年比)
輸出物価: 109.6 (+0.7% 前月比, -5.3% 前年比)
輸入物価: 108.7 (+0.7% 前月比, -17.4% 前年比)

国際収支: (10月)

経常収支: 1兆4,584億円
(+92.4% 前月比, +72.3% 前年比)
輸出: (+0.0% 前月比, -3.7% 前年比)
輸入: (-3.4% 前月比, -16.4% 前年比)

12/9:

民間コア機械受注: (10月 前月比+10.7%)

情報サービス業売上高: (10月 +2.8% 前年比)

12/8:

景気ウォッチャー調査: (11月)

現状判断 DI: (46.1, -2.1 前月差)
先行き判断 DI: (48.2, -0.9 前月差)

12/7:

景気動向指数: (10月 速報値)

先行: (102.9, +1.3 前月差)
一致: (114.3, +2.0 前月差)
遅行: (114.4, -0.3 前月差)

12/4:

毎月勤労統計: (10月速報値)

現金給与総額: +0.7% 前年比 総実労働時間: -2.8% 前年比

消費動向調査: 総合指数: (11月 42.6 前月差 +1.1)

12/2:

食糧安定供給: (11月 13億円, -96億円 前年比)

12/1:

新車販売台数: (11月 314,053台 -7.6% 前年比)

11/30:

鉱工業指数: (10月速報値)

生産: 98.8 (+1.4%前月比)
出荷: 98.8 (+2.1% 前月比)
在庫: 111.4 (-1.9% 前月比)

商業動態統計: (10月 速報値)

小売業: (+1.1% 前月比, +1.8% 前年比)

新設住宅着工: (10月)

新設住宅着工数: (-4.3% 前月比, -2.5% 前年比)
工事費予定額: (-3.7% 前月比, -2.2% 前年比)

建設工事費デフレーター: (9月)

住宅建築: -0.3% 前年比 公共事業: -0.7% 前年比



CQM(超短期経済予測モデル)

米国経済(月次)予測(2015年12月)

内容に関するお問い合わせは下記まで

e-mail: inada-y@apir.or.jp

ポイント

●成長率・インフレ予測の動態

▶今週(12月25日)のCQMは2015年7-9月期GDPの確定値とそれに対応する11月の個人所得・消費支出のみを更新した。

▶図表1に見るように、支出サイドからの実質GDP伸び率(10-12月期)は過去2週間上方修正され、1.8%となった。この成長率は市場のコンセンサスに近い。

▶しかし、真の経済成長率を支出・所得両サイドの平均実質GDPと考えると3.2%とかなり高くなる。このことは、10-12月期の統計上の誤差が非常に大きなマイナスになることを示唆している。

▶実質最終需要1、2の予測をみても、景気の現状は支出サイドの実質GDPでみるよりはるかに堅調なことが分かる(図表1)。連銀が政策金利引き上げ時に想定した労働市場の改善をもたらす景気拡大は正しい。

▶図表2はCQMによるヘッドラインインフレ率の予測(2016年末まで)を示している。2016年末においても、前年同月比の伸び率は1.5%と連銀の目標の2%には達しない。しかし、前期比年率でみてもインフレの加速化はなく、インフレ率は0%-2%の範囲に落ち着いており、物価安定は既に達成されていると解釈すべきである。

●2016年大統領選動向(12月)

▶多くの有権者はHillary(35%)、Trump(50%)が大統領になることを恥ずかしいと思っている。

▶HillaryにはTrumpが共和党の大統領候補となることが最も好ましい。現時点のマッチアップでHillary-Trumpは47%-38%とHillaryがかなり優位にある。

▶Bushは今回のディベートでcome backできなかった。遅かれ早かれ戦線離脱となるだろう。

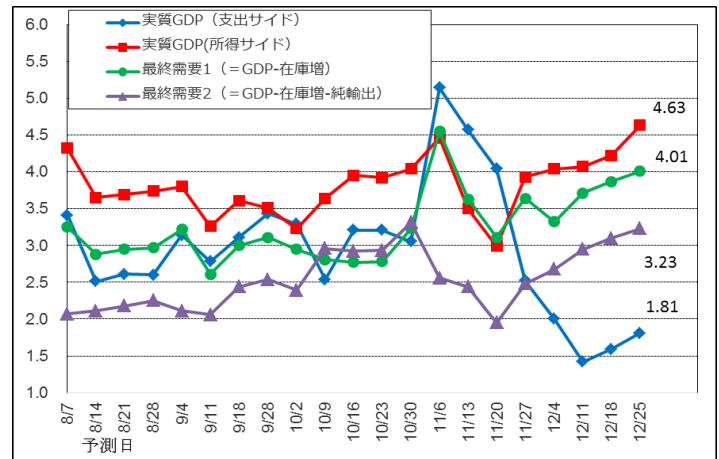
▶今後の見どころは、いつまでTrumpの高支持率が続くのか、そしてIowa州のコーカスでCruzに負けた後のTrumpの支持者の動向である。

▶バックグラウンドが非常に似ているCruzとRubioがそれを見越して、今後どのようにお互いの相違を有権者に訴へ、優位にたつかである。

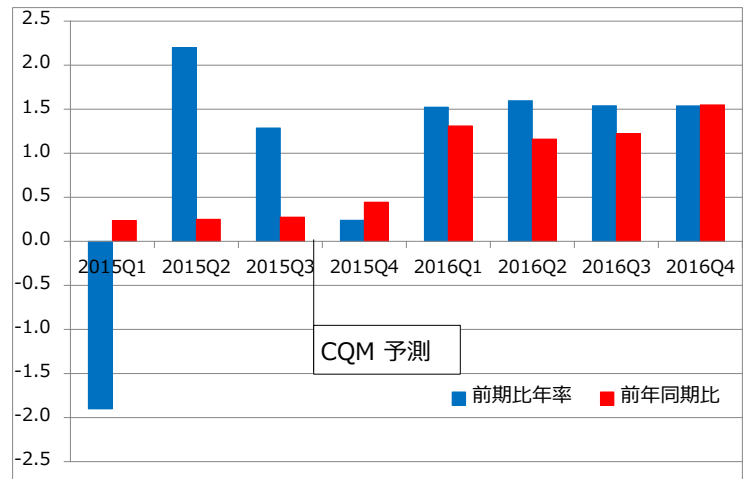
▶支持層をみると、Trumpに近いCruzは女性からの支持が弱く、Rubioはアウトサイダーと見なされないことから、大学卒でない若者からの支持が弱い。

図表1：実質GDP、実質最終需要、(%、saar)

2015年10-12月期



図表2：ヘッドラインインフレ率 (%)



2016 年大統領選挙動向（12 月）：一般の有権者の選択は ABCD (Anybody But Clinton or Donald)

12 月 16-20 日に行われた Quinnipiac 大学の調査では Trump を大統領として仰ぐことになれば、米国の有権者の 50%は恥辱と思うと答えている。誇らしく思うと答えているのは 23%に過ぎない。Hillary に関しては恥辱と思う有権者が 35%と誇らしいと思う 33%を超えている。すなわち、一般の有権者は Hillary、Trump 以外の大統領を求めていると言うことになる (Anybody But Clinton or Donald: ABCD)。何しろ、Honesty/Trustworthy の質問で、“Yes”と答えているのは Hillary、Trump それぞれ 36%、35%と少なく、“No”と答えているのがそれぞれ 60%、59%にも達するのだから無理もない。まして、Hillary-Trump の間でのバトルが激しくなる中で、彼らの支持率が上昇することは笑い事では済まされない。

民主党：Trump をターゲットにし始めた Hillary

第 3 回目の民主党のプライマリーディベートが 12 月 19 日に開かれた。“ウォールストリートは Hillary を好ましく思っているようだが？”の質問に、“All should love me”と返した Hillary は明らかにディベートの巧者と分かる。しかしディベートは、Hillary が外交政策で、Obama から更に距離をおいた以外、目新しいものはなかった。

目を引いたのは、討論に出場もしていない Trump の名が、Hillary たちの討論の中で 9 回もでてき、Hillary は確たる根拠もないのに、“Trump のビデオが ISIS のリクルートに使われている”と彼を非難したことだ。これに激怒した Trump は Hillary に謝罪を求めたが、Hillary はそれを拒否し、泥沼化の様相を強めている。これが Trump の支持率の上昇に結び付く可能性もあるのだから不思議なものである。

12 月 18 日の Fox news poll における Hillary の共和党大統領候補者とのマッチアップでは、Hillary-Trump の支持率は 47%-38%と Hillary が断然有利になっている。しかし、Hillary-Rubio は 43%-45%と Rubio にわずかに負け、Hillary-Cruz は 45%-45%(Check)と対になり Hillary の優位は見られない。Hillary としては Trump にできてほしいのである。

外交政策に関して、Hillary はタフになり“ISIS は Containment ではなく Destroy”と言い、国連がシリアのシビル戦争問題の解決に乗り出すと決めたことを取り上げ、“Finally we are now where we need to be (to fight against ISIS)”と言っていた。しかし、これではアメリカの外交政策は“set by others”なのか？との疑問が生じる。そして今 Hillary は Sanders に全国調査で 22 ポイントの差を付けてリードしているので、戦争に嫌悪感を抱くプライマリーポーターを相手にタフな姿勢に出ても負けることはないかと踏んでいるのだろう。しかし、彼女が 2008 年の選挙時の今の時点で Obama に 29 ポイントの差を付けていたことが思い出される。

共和党：Come Back できなかった Bush、焦点は Cruz と Rubio の相違に

共和党のディベートが national security をテーマに 12 月 15 日に行われた。興味は如何に Bush が come back するかと、Rubio と Iowa 州で Trump に支持率 10%の差をつけて Top に躍り出た Cruz が如何

にお互いの相違をはっきりさせるかにあった。予想通り、Bush は Trump の“暫定的モスラム人の入国拒否”を取り上げ、彼を“Chaos Candidate”と呼び、Commander-in-chief にはなりえないと激しく攻めた。しかし、Trump は襟についた糸を払うがごとく、Bush の 4%程度の低い支持率を指摘し、“He has failed in this campaign”と簡単にいなした。萎縮した Bush はクローゼットステイトメントでも、暗唱している筈なのに、口ごもり、冴えない終わり方になった。Bush の street fighter としての弱さがでた。彼は遅かれ早かれ戦線離脱する。

実際のディベートの焦点は Cruz と Rubio の相違についてだった。何故ならば、バックグラウンドが非常に似ている 2 人にとって、彼らは両者の間には明確な考え方の違いがあることを示さなければならない時にきていたからである。特に、イミグレーションとナショナルセキュリティ問題で彼らは意見を異にしている。

Cruz は移民問題で the Gang of Eight での Rubio の役割を持出して攻撃した。Gang of Eight というのは、国の移民法を見直し修正箇所があれば両党で話合って修正しようと言う事で 2013 年に立ち上げられて改正案作りに勤しんだ 8 名の上院議員のバイパルチザングループである。Cruz は Rubio を米国に不法に滞在する人々に実際には“amnesty (恩赦)”を授けることになるプランを Obama や Chuck Schumer と密かに手を結んで進めたとか巧妙に批判していた。一方、Rubio は Cruz が不法移民に労働許可を与える修正案を押していたのだから、Cruz との差はあまりないと反論をしていたが、この修正案は彼らに市民権を得ること禁じていることから、Rubio の反論も弱い。

National Security の問題に関しては、Cruz が“Do you violate the Constitution in the pursuit of potential terrorism suspects?”と Rubio を批判するのに対して、Rubio は“Do you not use tools to stop terrorists before they carry out acts?”と Cruz に反論をする。テロの可能性がますます高くなる環境においてこの問題に関しては Rubio に分があると思われる。また、メタデータを扱う時、Privacy の問題は従来と異なった次いで議論されるべきだからである。

Trump に対する両者の対応も異なる。Rubio は Trump の一時的なイスラム教徒の入国禁止案に対して、彼はこのプロポーザルを Trump のパターンである“offensive and outlandish” rhetoric と厳しく批判した。一方、Cruz は物静かに Trump のイスラム教徒の入国禁止案には不都合だと言うが、Trump が国境確保の必要性に米国民の目を向けさせるべく立ち上がった事実は賞賛されると言っていた。これは Cruz が Trump ポーターを自方に惹き付けようとしているからである。

支持層にも彼らの弱点の相違が見られる。Cruz は Trump にちかいことから女性の支持率が低く、Rubio はアウトサイダーとみられないことから大卒でない若者からの支持が少ない。

The right-wing establishment とみなされ、共和党の重鎮からの受けがよい Rubio と、どんな局面でも GOP リーダーと対立する事を厭わない an uncompromising hardliner の Cruz が次回のディベートでどのようなバトルを展開するかに興味がある。Rubio は、Cruz に対して“Trump の意見を支持するのか？それとも Trump と袂を分かつのか？”のどちらだと問いただし、Cruz の Trump に対する彼の立場を明確にさせることが重要な戦略の一つとなるだろう。

12月の主要経済指標

12/24:

失業保険新規申請件数 (12/19, 267,000)

12/23:

個人所得 (11 月: 0.3%)

賃金・俸給: 0.5%

個人消費支出 (PCE) : 0.3%

貯蓄率 : 5.5%

シガン大学消費者センチメント

総合: 12 月: 92.6, 11 月: 91.3, 10 月: 90.0, 9 月: 87.2

現在: 12 月: 108.1, 11 月: 104.3, 10 月: 102.3, 9 月: 101.2

期待: 12 月: 82.7, 11 月: 82.9, 10 月: 82.1, 9 月: 78.2

耐久財受注 (11 月) (速報値)

新規受注: 0.0%

出荷: 0.9%

コンピューター・電子製品: 0.7%

輸送機器: 2.9%

非軍事資本財 (航空機を除く) : -0.5%

新築住宅販売件数 (11 月: 0.490 mil., 4.3%)

12/22:

GDP (2015Q3: 確定値)

実質: 1.98%

名目: 3.31%

GDP インブリスット価格デフレーター: 1.30%

リッチモンド連銀製造業調査 (12 月: 6, 11 月: -3, 10 月: -1)

リッチモンド連銀サービス業調査 (12 月: 0, 11 月: -1, 10 月: 18)

中古住宅販売件数 (11 月: 4.76 mil., -10.5%)

12/21:

シカゴ連銀全米活動指数 (11 月: -0.30, 10 月: -0.17)

12 /18:

カンザス・シティー連銀製造業調査: (12 月: -9, 11 月: 1)

12 /17:

フィラデルフィア連銀製造業調査:

(12 月: -5.9, 11 月: 1.9, 10 月: -4.5, 9 月: -6, 8 月: 8.3)

コンファレンスボード景気指数 (11 月)

総合指数: 0.4%

一致指数: 0.1%

遅行指数: 0.3%

12 /16:

住宅着工件数 (11 月: 1.173 mil., 10.5%)

鉱工業生産指数 (11 月: -0.6%, 10 月: -0.4%, 9 月: -0.1%)

FOMC ミーティング

12 /15:

消費者物価指数 (11 月: 0.0%)

コア: 0.2%

NY 製造業調査 (12 月: -4.6, 11 月: -10.7, 10 月: -11.4)

NAHB 住宅市場指数 (12 月: 61, 11 月: 62, 10 月: 65)

12 /11:

小売販売 (フードサービスを含む) (11 月: 0.2%)

自動車を除く: 0.4%

自動車・部品ディーラー: -0.4%

生産者物価指数 (11 月: 0.3%)

最終財, コア: -0.1%

中間財, コア: -0.4%

原材料, コア: -5.1%

企業在庫 (10 月: -0.03%)

製造業: -0.09%

小売業: 0.13%

卸売業: -0.12%

輸入価格 (nsa): (11 月: -0.4%)

輸出価格 (nsa): (11 月: -0.6%)

連邦政府財政収支 (11 月: -\$64.6 bn.)

歳入: \$205.0 bn.

歳出: \$269.5 bn.

12 /7:

労働市場状況指数 (11 月: 0.5, 10 月: 2.2)

消費者信用増 (10 月: \$1628.9 bn.)

回転: \$6.7 bn.

非回転: \$22.2 bn.

12/4:

非農業雇用増 (11 月: 211K)

財製造業 (34K)

サービス業 (163K)

政府 (14K)

失業率: 5.0%

平均時間当たり所得: \$25.25 (0.2%)

平均週当たり労働時間: 34.5 時間 (-0.2%)

貿易収支 (10 月: -\$43.9 bn.)

輸出: -1.5%

輸入: -0.6%

12/3:

非製造業指数: 11 月: 55.9, 10 月: 59.1, 9 月: 56.9

12/1:

自動車販売(11 月: 18.2 mil., 10 月: 18.2 mil.)

ISM 製造業指数(11 月: 48.6, 10 月: 50.1, 9 月: 50.2)

建設支出 (10 月: 1.0%)

民間住宅: 1.0%

民間非住宅: 0.6%.

公的: 1.4%

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690